

ケニアでの8日間...本当に！楽しかった！！この言葉に尽きます。

国際協力には興味があり、アフリカはぜひ行ってみたい場所の一つでした。しかし、いざ行くとなると周りから「アフリカなんて危ない所に何で行くんだ」「生きて帰ってこい」などと言われ、“アフリカ＝危険”のイメージにとらわれてしまい、本当に大丈夫か？という思いが強くなりました。出発前は期待よりも不安のほうが大きかったです。しかし、実際に行ってみたら、イメージとは異なるものでした。

ホームステイでは全身蚊やダニに刺され、帰国してだいぶ経つのになまだかゆみが治まりません。そして肌は乾燥でぼろぼろになりました。ケニアの気候や環境は私の体には合わないものでした。しかし、私はケニアにまた行きたいです。そう思わせてくれたのは、私がホームステイを行った村の人々との出会いがあったからです。

2007年、ケニアでは大統領選挙結果を巡るトラブルから民族対立が激化し、民族虐殺事件が起きました。私が尋ねた村もその虐殺事件の被害を受けた村でした。家々・小学校は焼かれ、教会に逃げた人々も焼き討ちに会い、そこでひどいやけどを負った少年にも出会いました。3年間でだいぶ修復は進んでいたみたいですが、焼けた家はまだ残っていて、その様子は当時を物語るようにひっそりと佇んでいました。

私のホストマザーは3年前に起こったできごとを私に熱心に話してくださいました。もう二度とそのような事件が起こらないように、様々な民族同士が集まって家族のように一緒に暮らし、助け合うことで、平和の構築を願うという活動を行っていました。若者による村対抗のサッカーの試合もその活動の一つです。

その村で出会った人々はみんな優しく、思いやりがあり、とてもフレンドリーでした。3年前に虐殺事件があったなんて思えないくらい、平和で温かい土地でした。

しかし、3年前のその事件の傷は確実に人々の心の中に深く刻まれていて、その傷を背負いながらみんな暮らしているのです。それでも、みんな笑顔で生き生きと暮らしているのは、平和を願い、前向きに日々を生きているからなのではないかと感じました。

私はただ純粹に、ケニアの人々のその魅力に取りつかれてしまいました。

ただ、今回はケニアの都会の方ではなく、村の中で過ごしたということから、

比較的危険な目に逢うことはなかったのかなと感じます。今回、ケニアに行って、何もかもが新鮮で楽しいことばかりでしたが、だからと言って“ケニア＝安全＝楽しい場所”はあてはまるとは思いません。この8日間でケニアが大好きになりましたが、私が見たケニアはほんの一部分だと思います。

『まだまだ知らない世界がたくさんある』

ケニアに限らず、私は知らないことが多い、すごく弱い小さい存在だと今回の旅で感じさせられました。世界をもっと知りたい、世界を見たいならそれだけの力を蓄えなければならないのです。

私は看護師を目指していますが、まだまだ知識が浅く、専門分野に進む自覚が足りないことをひしひしと感じました。今回、『AMPATH』というプロジェクトを行っている『MTRH(Moi Teaching and Referral Hospital)』を見学させていただきましたが、英語での説明が聞き取れず、また医療における知識の不十分さから理解するのに大変苦しみました。自分の力の無さを一番痛感した瞬間です。

村の人々ともコミュニケーションをとるには英語での会話でしたがこれもうまくいかず。

語学や専門分野の知識を兼ね備えて、再度またケニアに行きたいと思います。

遠い国に旅立ったことで日本にいたら気付かないことに多く気付かされました。自分を客観的に見つめるということにおいても今回ケニアに行けて本当によかったと思っています。

京都大学の学生ではないのに今回参加させていただき、またスケジュールから全てを手配して下さった木村先生・佐野さん、現地では多くのサポートをして下さった喜田さん、松本さん、本当に心から感謝しています。

しかし...本当に本当に楽しかった!!

最高の8日間でした。

Asante sana!!